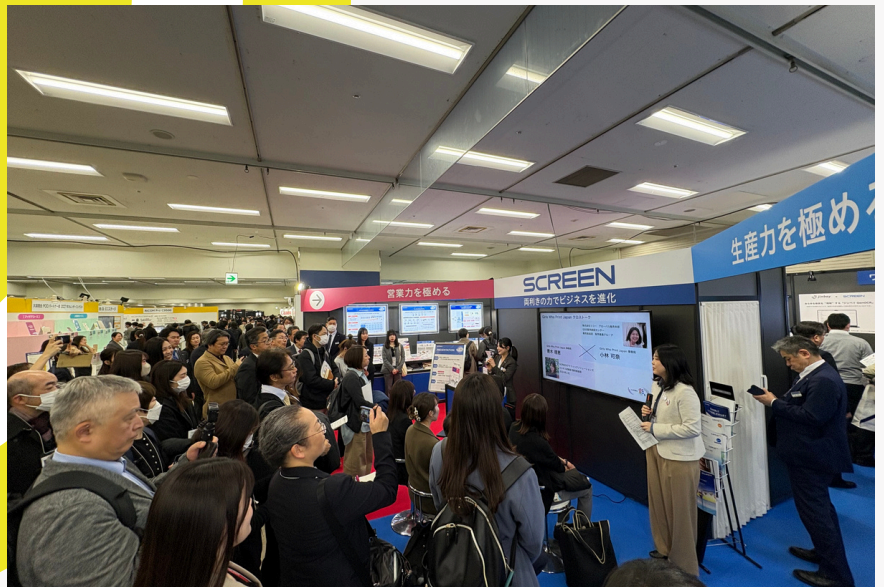


Vol.3

印刷女子通信



仲間と未来をつなぐ情報誌:『印刷女子通信』

印刷女子通信は、印刷業界で働く女性たちが、経験や知見を共有しながら、互いに学び合い、支え合うためのプラットフォームとして立ち上げたメールマガジンです。

編集/発行元のGirls Who Print Japanは、同じ志を持つ仲間とのつながりが、個人の成長だけでなく、業界全体の前進にもつながると考えています。日々の業務の中で得た気づきや課題、挑戦の先にある達成感——それらを言葉にし、共有することで、次の一步を踏み出す力が生まれると信じています。

この活動では、活動レポート、キャリア支援、国内外の印刷トレンドなど、幅広い情報をお届けしたいと思います。読者の皆さまが自身のキャリアを見つめ、印刷業界の未来に前向きな視点を持てるような、そんなきっかけを提供できれば幸いです。

これからもよろしくお願いいたします！

印刷女子 girls who PRINT japan

刷って、語って、つながって。

01 エグゼクティブサマリ



Girls Who Print Japanは、page2026展示会にて初の「印刷女子 交流ツアー」を実施し、業界内外から大きな反響を得ました。本取り組みは、印刷業界で働く女性たちがつながり、企業の枠を越えた横断的なネットワークを築くことを目的に企画されたもので、参加メンバーにとっても、業界関係者にとっても、新しい対話の場を開く機会となりました。

ツアーを通じて、各ブースの企業・団体から温かく迎えられ、活動への関心や協力の申し出が相次ぎました。「娘にも参加してほしい」「業界の活性化につながる取り組みだ」といった声も寄せられ、印刷女子の存在が確実に業界へ浸透しつつあることが確認されました。また、印刷女子メンバー同士も実際に集まり、対面で交流したことで、これまで以上に関係性が深まり、コミュニティとしての結束が強まる時間となりました。

今回のpage参加は、単なるイベント出展にとどまらず、「女性が業界を横断してつながること」の価値を業界全体に強く示すターニングポイントとなりました。活動を“見える形”で発信したことで、これまで接点のなかった企業・団体とのネットワーク拡張が一気に進み、今後の活動基盤づくりにも大きく寄与しています。

さらに、直後に行われたGirls Who Print US本部とのグローバルミーティングでは、日本チームの活動が高く評価され、欧州を含む海外グループとの連携も視野に、国際的な展開へ向けて動き出す一年となる見通しが示されました。

page2026での取り組みは、印刷女子の存在価値を業界に確実に届けるとともに、国内外の連携へ向けた新たな扉を開く成果につながりました。今回の経験は、今後のイベント、交流、そして国際連携を加速させる“次の一歩”の起点となっています。

目次



01: エグゼクティブサマリ

02: 印刷女子 交流ツアー in page

03: イベントのふりかえり

04: 印刷女子/Girls Who Print Japanのご紹介

05: GWP US本部とのミーティング

06: 今後の予定のお知らせ(4~6月)



02 交流ツアー in page



2026年2月18日(水)～20日(金)に池袋サンシャインシティで開催されたpage2026にて、印刷女子／Girls Who Print Japanは、初めてとなる「印刷女子 交流ツアー」を実施しました。展示会の中で“印刷女子が実際に集まる”貴重な機会となりました。

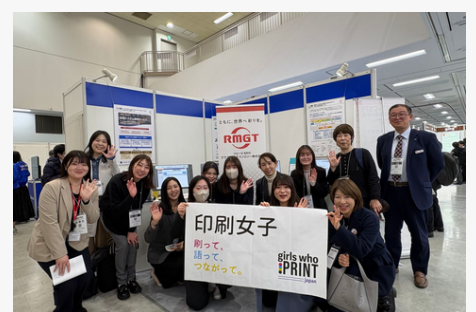
ツアー当日の2月19日(木)14:30、参加メンバーは「Screen GP ジャパン」ブースに集合。印刷女子／GWPJ事務局の青木さんと小林さんによる15分間のトークセッションでは、これまでの活動の背景、コミュニティの広がり、そして今回のツアーに込めた思いが語られました。ブース前には多くの来場者が足を止め、展示会の場で企業の枠を越えて女性同士が発信することの新鮮さと意義を感じていただく時間となりました。

その後は、参加メンバーで約1時間、展示会場内の複数企業ブースを訪問。各社の担当者の皆さまに温かく迎えていただき、写真撮影を交えつつ、

今後の連携や取り組みの可能性について自然な対話が生まれました。普段は接点のない企業の方々と直接つながることで、印刷女子の活動がより立体的に広がっていることが可視化され、メンバー同士の横のつながりも一層深まりました。

また、希望者はツアー後に会場近くで行われたカジュアルな交流会にも参加し、展示会での気づきやキャリアの話をリラックスした雰囲気でも語り合う時間となりました。

今回の交流ツアーは、“業界の中心地”である展示会を活用し、企業や組織の垣根を越えた出会いと対話を生み出す新たな試みでした。次ページの事務局からのフィードバックにもあるように、参加者からは「ネットワークが一気に広がった」「やってよかった」という声が多く寄せられ、印刷女子の今後の活動を大きく後押しする手応えのある取り組みとなりました。



03 イベントのふりかえり



【質問】今回、印刷女子/GWPj活動を、page展示会の場で打ち出してみていかがでしたか？

■青木 理恵さん(株式会社SCREENグラフィックソリューションズ)

想像以上の反響があって、本当にやってよかったと思いました。まず一番大きかったのは「つながり」です。久しぶりに再会できた方がいたり、知り合いの社長さんをどんどん紹介していただけたり、「こんな活動しているんだね」と興味を持ってくださる方が本当に多かった。会社にぜひ来てほしいと言ってくださる方もいて、ネットワークが一気に広がった実感があります。自分たちが思っている以上に、皆さんが前向きに応援してくれていることを肌で感じました。「女性がこんなに集まっている光景は初めて見た」「業界を盛り上げるきっかけになるから続けてほしい」と言ってもらえて、自分たちがやっていることに意味があるんだと実感できました。プレゼン後にブースにわざわざ立ち寄ってチラシを持っていかけてくださる方も何人もいて、チラシがなくなるほどの反響もありました。業界団体の方からも「何でも協力します」と言っていたり、「娘も入ってほしい」と言ってくださる社長さんもいたりして、本格的に広がっていく可能性を感じました。これまで私は“参加する側”でしたが、今回初めて主催側として関わってみて、応援してくれる人がこんなにいるんだと実感できたことが一番の成果かもしれません。この活動は続けていけば確実に広がっていくと思っています。

■ 関野 里美さん (セントラル印刷株式会社)

今回の交流ツアーは、本当に「大きな杭を打てた」きっかけになったと感じています。会場でも多くの方に見ていただいて、「見かけましたよ」とか「スクリーンさんで何をされていたのですか？」とお声がけいただくことがあり、私たちの取り組みがしっかりと届いているのだと実感しました。

また、スクリーンさんとリコーさんが一緒にお話しされている場面もあり、企業の枠を越えた対話の場が生まれたことも非常に意義深かったと思います。改めて、本当に実施してよかったと感じています。

■ 小林 可奈さん (株式会社リコー)

想像していた以上の反響があり、実施してよかったと感じています。各ブースを回らせていただいたことで、これまで接点のなかった企業様や団体の皆様からお声がけいただき、「ぜひ連携できることがあれば」といった前向きなお話いただくことができました。参加した印刷女子メンバー同士の横のつながりも、さらに深まったと感じています。今回は「集まること」を一つの目的としていましたが、皆さんが各ブースで活躍される姿にとっても刺激をもらいました。展示会という場で企業の枠を超え、同じ印刷業界で働く方々と交流できたことで、今後の可能性を実感する貴重な機会となりました。

■加藤 三紀子さん(一般社団法人 日本印刷産業連合会)

page 2026にて実施した今回の印刷女子の活動は、多くの皆さまから好評をいただき、「やってよかった」と実感できる取り組みとなりました。当日は、企業や団体の垣根を越えた連携の意義を、「ツアー」という形を通じてお伝えできたのではないかと感じております。印刷女子のメンバー同士も、楽しみながら活動し、交流を深めることができました。

温かく迎えてくださった各ブースの皆さまの声からも、短い時間ながらも思いを共有する貴重な機会となりました。

横断的なつながりの基盤が築かれたことが大きな成果だったと考えております。

本活動の一つの起点とし、日本印刷産業連合会としても関連10団体の皆様と連携し、業界の魅力発信につながる取り組みをさらに広げていきたいと思っております。

04 Girls Who Print Japanのご紹介

印刷女子／Girls Who Print Japanは、世代や職種を越えてつながり、出会い・学び・共感を育むコミュニティです。安心して話せる場で経験や気づきを共有しながら、印刷業界の魅力発信や次世代リーダーの育成、そして持続可能な未来づくりに貢献することを目指しています。

印刷女子／GWPJ事務局の永嶋さんが、これまでのイベント運営の経験をもとに、「印刷女子って何？」のご紹介スライドを作成くれました。活動の目的・価値・広がりをご短時間で伝えられる内容になっています。

Girls Who Print Japan：「印刷女子」ミッション・ビジョンと価値創造モデル

ミッション

- 出会い・学び・共感を通じて、印刷業界で働く女性たちが互いに力を高め合い、次世代のリーダーを育む支援的なコミュニティを築きます。

ビジョン

- 印刷業界の魅力が社会に発信し、多様なステークホルダーと連携しながら持続可能な業界の未来を創造します。
- 誰もがリーダーシップを発揮し続けられる環境を整え、若い世代も憧れる業界へと進化させていきます。

世代や職種を越えてつながり、学び合い、支え合うコミュニティを育む。

- 世代や職種を越えたネットワークづくり
- 安心して語り合えるコミュニティの形成
- 仲間の存在を感じられる場の提供

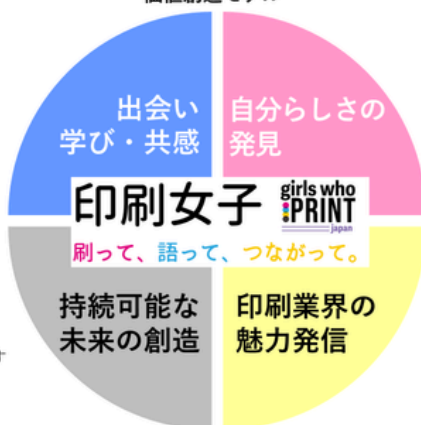
つながる 学ぶ 分かち合う

多様な連携で、誰もが活躍できる、変化に強い業界の未来を共に創る。

- 多様なステークホルダーとの連携・共創
- 国際的な視点を取り入れ、変化に強い業界へ進化
- 誰もが活躍できる、次世代に誇れる印刷業界を目指す

共創する つなぐ 進化させる

価値創造モデル



価値観や強みに気づき、自分らしいキャリアとリーダーシップを描く。

- 自分の価値観や強みを認識し言語化するワークショップ
- ロールモデルとの対話によるキャリアの気づき
- 自分らしいリーダーシップのスタイルを探る

気づく 描く 選ぶ

女性の声で印刷の価値と楽しさを伝え、次世代に興味と希望を届ける。

- 印刷の価値と楽しさを、業界内外に向けて発信
- 若い世代や女性に「印刷って面白そう」と思ってもらうきっかけをつくる
- 活躍する女性たちの声を通じて業界の可能性を伝える

伝える 惹きつける 広がる

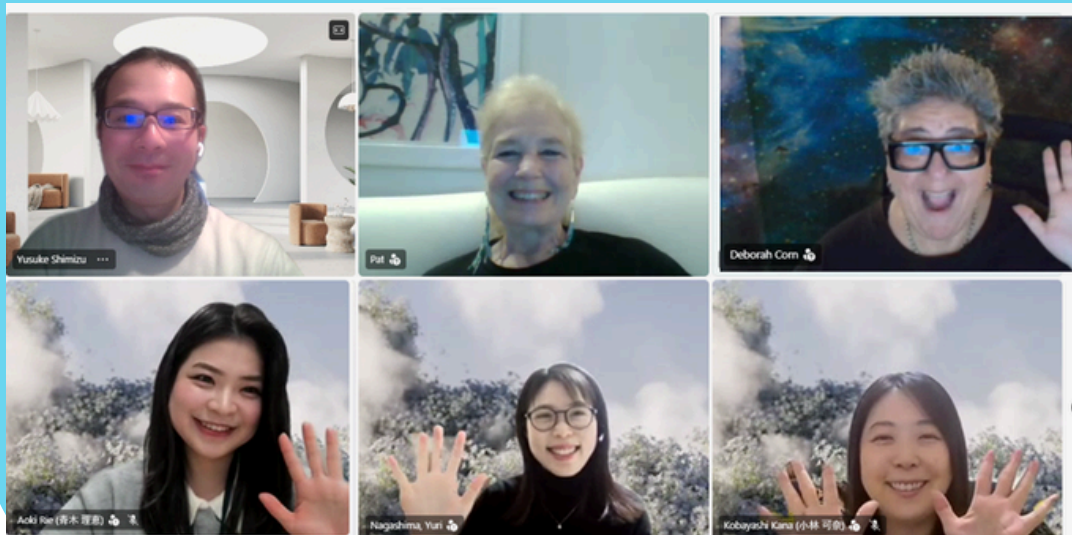
ヒストリー



05 GWP US本部とのミーティング

2026年の活動計画と、グローバル連携が一気に前進！

2026.3/3、Girls Who Print US本部のDeborah氏・Pat氏と、Girls Who Print Japanメンバー(永嶋、小林、青木、清水)がオンラインでミーティングを行いました。今回の対話では、Girls Who Print Japanのこれまでの歩みを振り返りながら、2026年の活動方針、資金支援、そして他の地域グループとの連携まで、次の一手につながる具体的な話が一気に進みました。



①2025/2026 活動のふりかえり: イベントの積み重ねが、外部の信頼へつながってきた

まず、Girls Who Print Japanの活動状況が共有されました。

2025.7 HP社イベント、2025.11 SCREEN社イベント、2026.2 リコー社イベント、そしてpage2026展示会での交流ツアーなど、活動の連続性と広がりが可視化されました。

印刷業界の主要な団体からもGirls Who Print Japanの活動が認識されはじめ、コミュニティの「楽しさ」だけでなく、業界との接点づくりが着実に進んでいることが共有されました。

② 2026年の計画:

2026年に向けては、具体的な計画が複数示されました。

まず、事務局メンバーを現状の5名体制から7名へ拡充する予定です。清水も裏方として参加。役割分担を厚くし、活動を持続可能な形へ進めます。また、大阪で開催される3日間のJP展示会にGirls Who Print Japanとしてブース出展を予定。関西地域での認知拡大につなげる狙いです。そして、4～6月は、各事務局メンバーらが主導し、カクテルパーティーのようなカジュアルな交流会を複数回行う構想も共有されました。7月の次回イベントへ向けての、よい助走になりそうです。

③ 朗報:US本部より2026年活動支援として5,000ドルの提供

今回の大きなニュースは、Girls Who Print US本部からJapanグループへ、2026年活動支援として5,000米ドルの提供が発表されたことでした。将来的な追加支援の可能性にも触れられ、Japanチームにとっては心強い後押しとなりました。

④ グローバル連携:他の地域グループの紹介、スポンサーシップの可能性も

日本グループからは、欧州などの他の地域グループとの交流について、US側からの紹介を依頼。活動のベストプラクティス共有や、国際的なつながりづくりが今後加速しそうです。

⑤ IGAS・Drupa、そして欧州展示会へ:国際イベントを“つながる場”に

将来の大型展示会についても話題に上がりました。IGAS 2027(2027.8.5～9 in 東京ビッグサイト)

では、国際メンバーの招待も視野に準備を進める方向。Drupa 2028では、日本側メンバーの参加も見込まれ、イベントスペース確保やスポンサー活用など、早い段階からの連携が重要になりそうです。また、FESPAやInterpackなど欧州展示会における交流イベントの案についても共有されました。

⑥ バッジ制作:小さな工夫が、コミュニティの記憶になる

最後に、印象的だったのが、イベントごとに制作している「オリジナルバッジ(記念 缶バッジ)」の話。このアイデアは、2025年に、青木さんがPatと会った時にもらったことが起点となっています。その後、日本グループが独自に、各イベントの記念缶バッジをつくる活動をスタート。「その日の体験が、手に残る」工夫が、コミュニティの一体感を育てており、Girls Who Print US本部も、日本グループにならないイベント毎の記念バッジを作成することを前向きにすすめようとしています。

06 今後の予定のお知らせ(4~6月)

(i)JP展 in 大阪に出展します

5月開催のJP展にブース出展いたします。

会場で皆さまとお会いできることを楽しみにしております。

また、Page同様に交流ツアーを予定しております。

参加登録サイトにつきましては、次回の印刷女子通信にてご案内いたします。

(ii)4月~6月の交流イベント予定のお知らせ


4月から6月にかけて、ミニ交流会の開催を予定しております。

ぜひお気軽にご参加ください。


詳細につきましては、次回の印刷女子通信にてお知らせいたします。

contact us

07

 080-4799-2960 (Keypoint / 清水祐介)

 yusuke.shimizu@keypointintelligence.com

 [http:印刷女子.style/](http://印刷女子.style/)

印刷女子通信(メルマガ)へのご登録はこちら
→ Googleで検索「印刷女子.style」 or 右のQRコードから

